

イノベーション部門

応募事例名

下水汚泥固形燃料化事業による下水道資源の有効活用

応募団体名)名古屋市上下水道局

応募事例の概要

導入の経緯

本市では下水道資源の有効活用の促進、有効利用先の多系統化および温室効果ガス排出量の削減を目指し、空見スラッジリサイクルセンターにおいて下水汚泥固形燃料化施設を令和2年度に稼働しました。



施設概要

燃料化施設 200wet-t/日
焼却施設 200wet-t/日 × 2基
固形燃料化物有効利用先
民間化学製品工場
市ゴミ焼却処分場

本市の汚泥処理の状況

空見スラッジリサイクルセンターは老朽化の進んだ宝神汚泥処理場の代替施設として平成25年10月に第1期施設が稼働しました。従来から下水道資源の有効活用に取り組んできましたが、今回さらなる取組みとして、山崎汚泥処理場の代替施設である、第2期施設の一部として固形燃料化施設を導入しました。



PRポイント

- ①下水汚泥をバイオマス資源として有効活用することで下水道のポテンシャルを活用！
- ②従来の汚泥焼却灰の有効活用に加え、固形燃料化物として有効利用先を多系統化！
- ③固形燃料化物はバイオマス資源であり、化石燃料の代替資源として、温室効果ガスの削減が可能！
- ④固形燃料化物を受入れ事業者に売却することで、灰処分費の支出が収入へ！
- ⑤汚泥の有効利用だけではなく、事業費削減および事業の効率化を目指しDBO方式を導入！



名古屋市上下水道局
下水道計画課長 藤本和行

取組みに関するエピソード

下水汚泥の固形燃料化事業、DBO方式を採用した事業者選定のどちらも、当初の取組みであり、経験がない中、手探りで事業を進めていくのに苦労しました。また、事業者選定審議会の立ち上げに際し、条例の制定も行うなど、先進的な取組みとなりました。

今後はこの経験を活かし、下水道資源の有効活用による環境負荷の低減や、PPP/PFIのさらなる取組みなどにより、効率的な事業運営を進めてまいります。